

栗原市病院事業経営健全化計画

平成 27 年度

— 重点取組事項等に対する点検・評価報告書 —

栗原市立病院経営評価委員会

【 所管：栗原市病院事業 医療局医療管理課 】

目 次

平成27年度重点取組事項等に対する点検・評価報告書

1 栗原中央病院の取組みに対する意見等	-----	1～2
2 若柳病院の取組みに対する意見等	-----	2
3 栗駒病院の取組みに対する意見等	-----	2～3
4 総括	-----	3～4
資料1 各委員からの意見、要望、提言	-----	5～6
資料2 平成27年度重点取組事項に係る自己点検・評価		
■ 栗原中央病院	-----	7～8
■ 若柳病院	-----	9～10
■ 栗駒病院	-----	11～12
《自己点検・評価の記載項目》		
1 病院の果たすべき役割（経営方針）		
2 取組実績に対する点検		
(1) 医療機能確保の視点		
(2) 財務の視点		
(3) 業務プロセスの視点		
(4) 学習と成長の視点		
3 収支計画及び決算（収益的収支）		
4 主な経営指標及び実績		
5 自己評価（病院総括）		
〔添付資料〕		
別紙1 市立3病院収支計画及び決算	-----	13～15
別紙2 市立3病院経営指標	-----	16～18
資料3 栗原市立病院経営評価委員会委員	-----	19
資料4 栗原市立病院経営評価委員会設置要綱	-----	20

栗原市病院事業 第二次経営健全化計画
平成27年度重点取組事項等に対する点検・評価報告書

栗原市病院事業から提出された「平成27年度重点取組事項等に係る自己点検・評価」及び「決算関係資料」をもとに、第二次経営健全化計画の最終年度にあたっていることを踏まえ、市立3病院の取組実績について、総体的に点検を行った結果は次のとおりである。

平成28年10月26日

栗原市立病院経営評価委員会

委員長 有 我 由紀夫

1 栗原中央病院の取り組みに対する意見等

医療機能強化のため、各関係機関への働きかけのほか、医学生修学一時金貸付事業や民間事業者の活用などにより医師招へいに努めているものの、平成27年度末において年度当初と比較し内科医2名、外科医1名が減員している。このことが要因で患者数が減少し、病床利用率も3年連続で計画値を下回る60%台となっている。

当経営評価委員会の開催時には、病院長、副院長の出席の他に、毎回、各部門の管理職員が傍聴に来ており、経営改善のヒントを得たいとする姿勢を感じているが、数値上に結果として現れていない点が残念である。

経営面では、平成27年度は、診療単価の増などにより入院・外来収益が前年度比で増加しているものの、当年度純損失は、3億5千4百万円になっている。

地域医療・介護を支えるため、急性期医療の機能に加えて回復期機能としての地域包括ケア病棟を開設したことは医業収益の確保にも繋がるものである。

また、ベッドコントロール会議の設置による看護必要度の精査、経営評価委員会の指摘を踏まえた診療材料・医薬品ベンチマークの導入は評価できるが、更なる収益確保、経費削減を図られるよう取り組みの実績について検証に努められたい。

変動損益計算によると、経常損失が3億5千万円で、損益分岐点売上高40億9千万円に対して、実際売上高が36億円となっており、不足額となる4億9千万円の解消が課題である。

今後、診療報酬改定、医療・介護の同時改定など医療・介護施策に大きな節目を迎

えることから、先を見据えた取り組みや医療スタッフなどの人材育成が必要であり、限りある医療資源や患者の疾病構造などを踏まえた地域の医療ニーズを把握するとともに、病院の果たすべき役割を再確認し、経営改善に繋がるような医療体制の整備に努めていただきたい。

2 若柳病院の取り組みに対する意見等

地域密着型慢性期医療の基幹病院として、病病連携・病診連携を図りながら在宅医療や初期診療などを担い、救急医療においては、一次救急のみならず二次救急にも対応している。常勤医師の高齢化といった状況にありながらも、経営方針としている「生活圏のなかでの医療提供」の役割を十分に果たしていると思われる。

経営面においては、平成27年4月に内科医師1名が採用されたことなどから、前年度と比較し平均入院単価、平均入院患者数とも前年度を上回ったことにより、6千6百万円の収支改善があり、当年度純損失は9千万円になっている。また、人間ドックの実施日数の増や、薬剤管理指導件数の増、CTの診療点数加算などによる収益確保、非常勤医師支援日数の調整による経費削減にも努力されている。

今後の診療報酬改定では、在宅診療に重点をおいた改定が見込まれることから算定要件を把握し収益確保に取り組んでいただきたい。

医療機能の維持、経営の効率化などの総体的な視点では、入院患者の急性期と回復期にあたる割合を分析するなどして、今後における病床機能のあり方を考える必要があると思われる。

3 栗駒病院の取り組みに対する意見等

常勤医師が3人といた厳しい医師配置の中で、地域の唯一の入院施設を持つ医療機関を守り続けている。

医療機能においては、紹介率、逆紹介率ともに昨年度を上回っており、近隣医療機関や老人福祉施設等と連携を図りながら、地域医療を担っていることが数値から読み取れる。

病床利用率は、対前年度比で2.9ポイント下がり73.7%となっているなど、患者数の減少が医業収益の減少に繋がっているものと思われるが、現体制では止むを得ない結果である。

例年指摘しているが、地域密着型慢性期医療の基幹病院として継続していくために

は、常勤医師の招へいが喫緊の課題である。栗原市病院事業として、医師招へいに努力されていることや、医師の地域偏在の問題も十分承知しているが、このままでは常勤医師の疲弊が危惧される。

現在の状況が続くのであれば、人口減少、高齢化といった現実を踏まえた「なれる姿」を模索するなど、病院の果たすべき役割について、真剣に検討する必要があると思われる。

4 総括

平成24年4月から開始した第二次経営健全化計画は、平成28年3月をもって計画期間が終了した。

経営評価委員会では、医療者の視点、経営改善の視点、財務の視点、患者の視点など、それぞれの立場において取り組みに対する点検を行い、地域医療を維持・継続していくために、厳しい提案なども行ってきたところである。

地域医療を守る自治体病院は、赤字でも仕方ないとする考えは成り立たない。その一方では、効率化や利潤追求があまりにも進むと、不採算医療の切り捨てになる危険があり、市民の医療を受ける公平性、平等性が失われるとの指摘もある。しかしながら、自治体の財政負担には限りがあることも事実である。

様々な意見はあるものの、医師の地域偏在や医療の高度化に伴う専門分化のほか、平成16年度に始まった新医師臨床研修制度などによって、地方においては、ますます医師招へいが難しいものとなり、経営的には、消費税の引き上げや診療報酬改定による入院基本料算定の厳格化など、病院経営にとって厳しい環境にあると言える。

現在、国においては、病床機能報告制度による将来の医療機能の方向性に向けた自主的な取り組みや地域医療構想の策定による医療機能の将来の必要量を含めた地域にふさわしいバランスのとれた医療機能の分化と連携を適切に推進することなど、医療の提供体制について、介護も含め自らの地域で具体的に考えることが示されており、先を見据えた取り組みや医療スタッフの人材育成・確保が必要となっている。

栗原市病院事業では、経営健全化に向けた独自の第二次経営健全化計画を策定し、限られた医療資源で、地域医療を維持するために努力されてきた姿勢は評価できるが、若柳病院及び栗駒病院では医師の高齢化が懸念される。今後においても、医師招へいに光明が見えない状態が続くのであれば、病院の役割について抜本的に検討すべきと思われる。

また、栗原中央病院においては、求められる役割をしっかりと見極め、地域の中核病院としての医療提供に努めていただきたい。

現在策定中の「新公立病院改革プラン」では、現状と今後の医療需要や経営の課題を分析し、経営の効率化や、宮城県地域医療構想案を踏まえた市立3病院の役割の明確化などの視点に立った改革を図り、市民が安心して暮らせるための医療体制が継続されることを期待したい。

各委員からの意見、要望、提言

- 若柳病院は、在宅患者数が多いことから、今後もこの診療体制を維持・継続できるかどうか、一つの大きな問題ではないか。
栗駒病院は、常勤医師3名のままでは、これ以上の増収は厳しいのではないか。
- これまでの何回かの事例研修で、計画、収益、費用、そして削減項目とかを洗い出して、その結果が平成27年度の実績値に出てきていると感じている。また、診療科目別の損益計算書は、民間の企業経営では有効な指標ですので、是非実施していただきたい。
- 生産工場であれば原価率が20%・30%なので、原価計算するのは容易だが、病院の場合は人件費が50%から60%、うっかりすると60%を超えていると思う。各科の原価計算はナンセンスだと思っている。本来であれば急性期病院の各科毎のデータよりも、急性期機能を持つ医療機関の収入や在院日数などの様々なデータ、或いは地域包括ケア病棟の運営など、機能別データの方が、将来を考える時には非常に有効である。
- 今回の診療報酬改定では、看護で取得できるものも何点かある。認知症加算、看護職の負担軽減による補助者加算、夜間看護体制、退院支援の充実、退院後訪問指導料等を取得できる工夫をしていただきたい。
管理職の考え方、工夫、人材育成がカギとなる。今後を見据えた人材育成もしていただきたいと思う。
- 大崎・栗原の医療関係資料から、人口減少は医療機関にとって大変だということ実は事実であり、どんな仕事においても人口減少によって大変な時代がやってくる。栗原の医療関係については、老人ホームなどがかなり増えてきており、その中で看護師及び専門職員がものすごく不足している。今後、在宅医療あるいは包括的な施設が大事になってくるので考えていかなければならない。
- 患者の入院・退院経路の情報が分る国保・後期高齢のデータが重要である。急性期病院では、看護必要度や重症度で患者像が分かるようなデータが必要でどのような症状の患者がいて、推計人口と併せると、将来どんな患者像あるいは疾患名の需要があるのかが分ると計画も立てやすい。

- 栗原中央病院の急性期医療の中でも癌や心臓疾患の部分をどこまでカバーするのか。また、脳卒中では1～2時間圏内になると思うが、地理的条件も踏まえながら急性期医療のどの部分をやっていくのか、掘り下げた資料があると分かりやすい。
- 地域包括システムの構築にあたり、急性期だけで運営できる病院は別として、地域の中で他職種連携のハブとなる機能を持つような病院づくりが非常に重要である。
- 地域医療構想の2025年目標として、大崎・栗原医療圏の病床数を700床近く削減するとなっていることから、栗原市にも厳しく病床数の削減が要求されるのではないかと予想される。
- 地域医療構想を踏まえた当該病院の果たすべき役割であるが、現状では、県が取りまとめた地域医療構想の素案をベースに栗原市立3病院の役割が示されているところだと思う。新公立病院改革ガイドラインでは2025年における将来像を示すようにとの要請があることから、その時点における社会状況、人口とかを踏まえた市立病院のあり方について検討が必要である。
- 病床利用率の改善に向けた再編ネットワーク化について、新公立病院改革ガイドラインにおいて、旧ガイドラインから引き続き、病床利用率が3年連続で70%未満となった病院は、病床数の削減、診療所化、再編ネットワーク化、経営形態の見直しなど抜本的な見直しを検討すべきとされている。市立病院においても、今回の地域医療構想を踏まえた役割を明確にした上で再編ネットワーク化などの取り組みについて検討いただきたい。
- 新公立病院改革ガイドラインにおいては、経営の効率化を図っていく中で、経営指標についての数値目標を設定することとされている。特に経常収支比率と医業収支比率の数値目標は、必須とされており、経営上の課題を十分に分析し一般会計からの繰入れ、費用負担についても市の財政サイドと調整し、計画期間中の各年度の収支計画の数値目標を作成すること。

平成27年度重点取組事項に係る自己点検・評価

病院名	栗原中央病院
-----	--------

1 病院の果たすべき役割（経営方針）

地域の中核病院として、高度医療や二次救急医療の役割を担い、急性期医療を中心に小児から成人・高齢者に至るまで、幅広い年代層への医療の提供、また、栗原地域の災害時における災害拠点病院としての機能、さらに、基幹型臨床研修指定病院としての役割を担っています。

また、市民が必要な時に“安全”で“安心”できる医療を提供できるように努めるとともに、市内一次医療機関や近隣医療機関との病病連携・病診連携を図り、市民に質の高い適切な医療を安定的に提供します。

2 取組実績に対する点検

(1) 医療機能確保の視点

目 標	取組実績	今後の課題・取組等
地域医療機関との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> 紹介率向上の実績 H26:60.7% H27:61.1% 逆紹介率向上の実績 H26:52.3% H27:43.6% 出前講座への参加、市民ふれあいまつりの開催等 	<ul style="list-style-type: none"> 医療機関の当院に対するニーズの把握及び地域への情報発信（広報誌及び出前講座等の充実）
医療スタッフの招へい	<ul style="list-style-type: none"> 医師招へいに努めたが、年度中に内科医2名減、外科医1名減で常勤医はH27年度当初の28名からH27年度末は25名となった。 	<ul style="list-style-type: none"> 継続的な医師の招へい活動 H28年度にPT 2名 ST 1名増員 看護師及び看護補助者の欠員補充を行う
災害拠点病院の指定要件整備	<ul style="list-style-type: none"> DMA T隊員5名(医師1名、看護師1名、薬剤師1名、事務2名) 宮城県災害医療技能研修(医師1名、看護師1名)への参加 	<ul style="list-style-type: none"> DMA T技能維持研修等への訓練参加及びDMA T隊員の増員

(2) 財務の視点

目 標	取組実績	今後の課題・取組等
医業収益の確保	<ul style="list-style-type: none"> 紹介患者増加のため市内医院等への訪問 地域包括ケア病棟の開設(H27.9) 委託料契約内容の見直しによる経費削減 H27年度 7,166千円 診療材料・医薬品ベンチマーク導入(年間ベース 250万円削減) 	<ul style="list-style-type: none"> H28年度当初予算目標病床利用率 73.0% 市内外の医療機関訪問 H28年度委託費契約ベース削減額 39,313千円実施 H28年度においても診療材料・医薬品ベンチマーク活用等により材料費と委託費の経費削減を図る

(3) 業務プロセスの視点

目 標	取組実績	今後の課題・取組等
医療の標準化	<ul style="list-style-type: none"> クリニカルパスの推進(利用率 H26:23.0%, H27:22.9%) 	<ul style="list-style-type: none"> クリニカルパス利用率 30%以上(電子カルテへの登録整備)

医療の質と安全の向上	・ H25 年度に取得した病院機能評価 Ver. 6 を維持し、医療の質と安全の確保	・ 計画的な検証作業（組織や運営上の改善等）
------------	--	------------------------

(4) 学習と成長の視点

目 標	取組実績	今後の課題・取組等
職員のスキルアップ	・ 研修の充実、専門医取得等の支援、看護師等のスキルアップのための支援	・ 計画的、体系的な人材育成

3 収支計画及び決算（収益的収支）

（単位：千円）

区分	H25 年度		H26 年度		H27 年度	
	計画額	決算額	計画額	決算額	計画額	決算額
医業収益	4,093,499	3,814,047	4,213,866	3,757,794	4,275,676	3,763,186
医業外収益	591,960	574,618	575,881	675,890	572,422	674,342
特別利益	0	0	0	0		
合 計	4,685,459	4,388,665	4,789,747	4,433,684	4,848,098	4,437,528
医業費用	4,430,049	4,500,014	4,499,192	4,518,987	4,526,098	4,522,703
医業外費用	241,134	252,068	232,996	285,983	224,774	268,716
特別損失	1,200	386	1,200	134,977	1,200	492
合 計	4,672,383	4,752,468	4,733,388	4,939,947	4,752,072	4,791,911
当年度経常損益	14,276	▲363,417	57,559	▲371,286	97,226	▲353,891
当年度純損益	13,076	▲363,803	56,359	▲506,263	96,026	▲354,383
その他未処分利益剰余金変動額	0	0	0	613,354	0	0
累積欠損金	▲5,371,828	▲5,664,247	▲5,315,469	▲5,557,156	▲5,219,443	▲5,910,389

※詳細は、別紙1「市立3病院収支計画書」のとおり。

4 主な経営指標及び実績

（単位：％）

区分	H24 年度		H25 年度		H26 年		H27 年度	
	計画値	実 績	計画値	実 績	計画値	実 績	計画値	実 績
経常収支比率	96.8	98.5	100.3	92.4	101.1	92.3	102.2	92.6
病床利用率	71.3	72.3	75.0	66.9	78.3	65.1	80.0	63.1
職員給与費比率	49.8	51.1	50.4	54.9	50.5	56.3	50.1	56.5
不良債務比率	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※詳細は、別紙2「市立病院経営指標」のとおり。

5 自己評価（病院総括）

平成 27 年度は、病床利用率 70%以上を目標として、職員一丸となって努力してきたが、通年の病床利用率は 63.1%となった。入院患者数減少の主な要因は、新入院患者は平成 26 年度より 64 名増加したものの、7 対 1 入院基本料の施設基準である平均在院日数 18 日を維持する必要があったことや年度途中での常勤医 3 名の退職等（6 月 2 名：外科担当、内科療養病棟担当、12 月 1 名：内科健診センター担当）があったためと思われる。

収支面では、患者数減にもかかわらず入院収益は前年度より 20,090 千円の増収となり、医業収益としても、5,392 千円の増収となった。その結果、当年度純損益は 354,383 千円の損失となり、前年度比 151,880 千円の損失の減となるが、前年度の特別損失（賞与引当金）の計上を除くと、17,416 千円の損失の減となった。

平成27年度重点取組事項に係る自己点検・評価

病院名	若柳病院
-----	------

1 病院の果たすべき役割（経営方針）

「生活医療圏」のなかでの医療提供、そのための「地域密着型慢性期医療」の基幹病院として、また、在宅医療・訪問看護・介護支援の拠点として、中核病院・地域診療所等との連携を図りながら、初期診療における総合的な判断と診療を行い、救急については一次救急はもとより、可能な限りの二次救急を行い、地域住民に信頼される病院を目指します。

2 取組実績に対する点検

(1) 医療機能確保の視点

目 標	取組実績	今後の課題・取組等
地域医療を担う常勤医師の招へい	平成27年4月に内科医師1名が補充となり、内科医師4名、外科医師1名、整形外科医師1名となり、医師充足率は95%程度を推移し、医師不足はやや解消されたものの、平成28年3月末で内科医1名が退職となった。	常勤医師の高齢化が進行しており、地域医療を担う、若手医師の招へいによる、医師充足率100%の達成が課題である。(現在の標準医師数は9.6人であり、常勤換算医師5人、非常勤医師2.3人で充足率は76.5%となる。)

(2) 財務の視点

目 標	取組実績	今後の課題・取組等
医業収益の確保	救急医療管理加算の変更、CTの機種変更により、診療点数の加算を取得した。また、ドックの日程を増やし増収を図った。 (5,144千円)	施設基準の見直しや医療改定への対応により収入の増加を図る。
経費の削減	非常勤医師支援日数の調整を行い、報酬及び旅費交通費の削減を行った。(報酬：2,111千円、旅費交通費：551千円)	10年目を迎え、修繕が多くなってきているが、できるだけ経費の削減を図る。

(3) 業務プロセスの視点

目 標	取組実績	今後の課題・取組等
地域医療研修受入施設として研修内容の充実を図る	平成27年度実績 ・栗原中央病院研修医 1名	研修内容である、訪問診療、訪問看護、訪問リハビリ、在宅患者訪問褥瘡管理などの充実を図り、東北大学病院やJCHO 仙台病院などの研修医を受け入れる。

(4) 学習と成長の視点

目 標	取組実績	今後の課題・取組等
専門性の向上(職員のレベルアップ)を図る	医師学会出席 延べ 36名 看護師研修会 延べ 19名 ファーストレベル研修 1名 コメディカル研修会延べ 4名 院内研修会出席 延べ 683名	今後も計画的に研修会に参加することにより、職員の専門性の向上とレベルアップを図る

3 収支計画及び決算(収益的収支)

(単位:千円)

区分	H25年度		H26年度		H27年度	
	計画額	決算額	計画額	決算額	計画額	決算額
医業収益	1,561,714	1,461,017	1,561,714	1,338,228	1,561,714	1,437,764
医業外収益	171,247	181,290	169,117	191,158	168,634	197,226
特別利益	0	0	0	0	0	0
合 計	1,732,961	1,642,307	1,730,831	1,529,386	1,730,348	1,634,990
医業費用	1,629,777	1,621,845	1,629,920	1,576,017	1,628,511	1,614,313
医業外費用	101,788	99,916	99,409	108,405	96,870	110,343
特別損失	457	1,368	457	53,640	457	456
合 計	1,732,022	1,723,129	1,729,786	1,738,062	1,725,838	1,725,112
当年度経常損益	1,396	▲79,454	1,502	▲155,036	4,967	▲89,666
当年度純損益	939	▲80,822	1,045	▲208,676	4,510	▲90,122
その他未処分利益剰余金変動額	0	0	0	10,924	0	0
累積欠損金	▲123,174	▲148,811	▲122,129	▲346,563	▲117,619	▲436,685

※詳細は、別紙1「市立3病院収支計画書」のとおり。

4 主な経営指標及び実績

(単位:%)

区分	H24年度		H25年度		H26年度		H27年度	
	計画値	実績	計画値	実績	計画値	実績	計画値	実績
経常収支比率	94.5	97.4	100.1	95.4	100.1	90.8	100.3	94.8
病床利用率	83.3	81.6	85.2	77.0	85.2	71.3	85.2	74.6
職員給与費比率	55.2	55.0	52.0	56.8	52.0	60.7	52.0	57.3
不良債務比率	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※詳細は、別紙2「市立病院経営指標」のとおり。

5 自己評価(病院総括)

平成27年度は医師6名の体制となり、医師充足率は95%台で推移した。(常勤医師5名、内科医師1名)病床利用率は74.6%と計画より10.6%低くなったものの、入院患者数は前年より1,533人の増となった。(内科医師1名増による入院患者数の増)

また、入院診療単価も26,707円で、重症患者数の増等により前年度と比べ1,217円の増加となった。外来は、患者数・診療単価ともほぼ横ばいとなっている。

医業収益は1,437,764千円となり、計画額の92.0%となった。医業費用は1,614,313千円となり、計画額の99.1%となった。当年度純損益で90,122千円の損失となり、前年度比では118,554千円の損失の減となるが、前年度の特別損失(賞与引当金)の計上を除くと、65,207千円の損失の減となった。

平成27年度重点取組事項に係る自己点検・評価

病院名	栗駒病院
-----	------

1 病院の果たすべき役割（経営方針）

地域に密着した「地域密着型慢性期医療」の基幹病院として、近隣の医療機関・保健福祉施設等との連携と機能分担を図り、良質な医療を提供し、地域住民の健康を守ることに全力を尽くし、信頼される病院を目指します。

また、「和顔愛語」「恕」の精神で多くの住民から愛される病院を目指します。

2 取組実績に対する点検

(1) 医療機能確保の視点

目 標	取組実績	今後の課題・取組等
地域連携の推進	平成27年度の紹介率は26.3%となり、対前年度比で2.8ポイント上昇している。逆紹介率は32.3%となり、前年度より16.6ポイント上昇しており、成果があった。	地域医療連携室の活用により、更なる紹介率、逆紹介率の向上と地域連携の充実を図る。

(2) 財務の視点

目 標	取組実績	今後の課題・取組等
病床利用率の向上と平均在院日数の短縮	平成27年度の病床利用率は73.7%となり、対前年度比で2.9ポイントの低下となった。平均在院日数は19.9日で、前年度と比較すると0.9日の増となった。	外来、入院共に患者数が減少している中で、患者数を確保しながら、地域包括ケア病床を利用し、在院日数を維持できるように努める。

(3) 業務プロセスの視点

目 標	取組実績	今後の課題・取組等
医療安全の充実	リスクマネジメント委員会 12回 リスクカンファレンス 26回 医療機器安全管理委員会 12回 院内研修 12回、延べ 229名 院外研修 4回、延べ 13名	今後も各種研修会の伝達研修や院内研修の充実を図り、医療事故防止に努める。

(4) 学習と成長の視点

目 標	取組実績	今後の課題・取組等
専門性の向上 各種研修の充実	医療安全研修会、自治体病院学会で研究発表を実施した。 院内においても医療機器使用研修会や院内感染対策研修会を行った。	今後も院内研修の充実を図るとともに、積極的に院外研修、学会発表など出来る環境を作る。

3 収支計画及び決算（収益的収支）

（単位：千円）

区分	H25 年度		H26 年度		H27 年度	
	計画額	決算額	計画額	決算額	計画額	決算額
医業収益	815,259	763,177	815,259	702,252	815,259	673,195
医業外収益	167,677	154,967	167,028	198,845	167,429	193,913
特別利益	0	0	0	0	0	0
合計	982,936	918,144	982,287	901,097	982,688	867,108
医業費用	914,834	886,322	909,601	901,201	901,987	888,398
医業外費用	36,415	36,160	35,799	49,881	35,117	42,224
特別損失	67	640	67	29,728	67	397
合計	951,316	923,122	945,467	980,810	937,171	931,019
当年度経常損益	31,687	▲4,338	36,887	▲49,985	45,584	▲63,514
当年度純損益	31,620	▲4,978	36,820	▲79,713	45,517	▲63,911
その他未処分利益剰余金変動額	0	0	0	2,900	0	0
累積欠損金	▲59,373	▲71,366	▲22,553	▲148,179	22,964	▲212,090

※詳細は、別紙1「市立3病院収支計画書」のとおり。

4 主な経営指標及び実績

（単位：%）

	H24 年度		H25 年度		H26 年度		H27 年度	
	計画値	実績	計画値	実績	計画値	実績	計画値	実績
経常収支比率	95.0	97.2	103.3	99.5	103.9	94.7	104.9	93.2
病床利用率	79.2	78.9	86.1	80.4	86.1	76.6	86.1	73.7
職員給与費比率	64.4	65.7	61.8	61.2	61.8	69.4	61.8	71.3
不良債務比率	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※詳細は、別紙2「市立病院経営指標」のとおり。

5 自己評価（病院総括）

患者数は前年度と比較すると入院で741人の減、外来で2,237人の減という結果になった。

患者数の減少に伴い、医業収益は計画額と比較して142,064千円の減収となり、また、当年度純損益は63,911千円の損失となり、前年度比15,802千円の損失の減となるが、前年度の特別損失（賞与引当金）の計上を考慮すると損失は13,298千円の増となった。損失増の主な要因は、外来の午後の診療時間の短縮などが入院患者数の減少にも影響したものである。常勤医が3名というのも患者減少に拍車を掛けていると考えている。早急に内科医1名の招へいが必要と思われる。

地域住民が減少する中、地域に密着し信頼される医療機関として、また、地域で唯一の入院施設を持つ医療機関として、他の医療機関や介護施設等と連携し、信頼される地域医療を担っていきたい。

別紙1 市立3病院収支計画及び決算

1 栗原中央病院

(単位：千円)

区分	年度	H25年度		H26年度		H27年度	
		計画額	決算額	計画額	決算額	計画額	決算額
1 医業収益		4,093,499	3,814,047	4,213,866	3,757,794	4,275,676	3,763,186
(1) 入院収益		2,821,036	2,536,495	2,941,403	2,469,924	3,003,213	2,490,014
(2) 外来収益		912,870	929,516	912,870	972,308	912,870	972,773
(3) その他医業収益		155,070	152,433	155,070	152,166	155,070	141,861
(4) 他会計負担金		204,523	195,603	204,523	163,396	204,523	158,538
2 医業費用		4,430,049	4,500,014	4,499,192	4,518,987	4,526,098	4,522,703
(1) 給与費		2,064,101	2,092,149	2,126,101	2,114,816	2,141,601	2,125,060
(2) 材料費		639,311	648,964	650,086	659,300	661,459	686,815
(3) 経費		1,319,110	1,360,161	1,319,110	1,319,635	1,319,110	1,277,168
(4) 減価償却費		390,348	374,470	386,716	402,567	386,749	416,848
(5) 資産減耗費		6,990	12,856	6,990	9,560	6,990	3,621
(6) 研究研修費		10,189	11,414	10,189	13,109	10,189	13,191
医業損失／医業利益		△336,550	△685,967	△285,326	△761,193	△250,422	△759,517
3 医業外収益		591,960	574,618	575,881	675,890	572,422	674,342
(1) 受取利息配当金		1,089	348	1,089	246	1,089	182
(2) 他会計補助金		181,163	173,036	181,163	240,564	181,163	248,820
(3) 補助金		37,106	41,172	27,720	34,907	26,681	32,775
(4) 負担金交付金		331,854	322,100	325,161	280,683	322,741	271,769
(5) 長期前受金戻入		0	0	0	82,660	0	82,878
(6) その他医業外収益		40,748	37,962	40,748	36,830	40,748	37,918
(7) 雑収益		0	0	0	0	0	0
4 医業外費用		241,134	252,068	232,996	285,983	224,774	268,716
(1) 支払利息及び企業債取扱諸費		164,963	166,012	156,825	157,849	148,603	149,738
(2) 繰延勘定償却		0	0	0	0	0	0
(3) 長期前払消費税償却		0	0	0	0	0	0
(4) 雑支出		76,171	86,056	76,171	128,134	76,171	118,978
経常利益／経常損失		14,276	△363,417	57,559	△371,286	97,226	△353,891
5 特別利益		0	0	0	0	0	0
(1) その他特別利益		0	0	0	0	0	0
6 特別損失		1,200	386	1,200	134,977	1,200	492
(1) 過年度損益修正損		1,000	316	1,000	133,745	1,000	451
(2) その他特別損失		200	70	200	1,232	200	41
(3) 臨時損失		0	0	0	0	0	0
当年度純利益／純損失		13,076	△363,803	56,359	△506,263	96,026	△354,383
前年度繰越利益剰余金／欠損金		△5,384,904	△5,300,444	△5,371,828	△5,664,247	△5,315,469	△5,556,006
その他未処分利益剰余金変動額					613,354		
当年度未処分利益剰余金／未処理欠損金		△5,371,828	△5,664,247	△5,315,469	△5,557,156	△5,219,443	△5,910,389

※端数については、四捨五入のため合計が合わない箇所があります。

※地方公営企業決算状況調査より。

2 若柳病院

(単位：千円)

区分	年度	H25年度		H26年度		H27年度	
		計画額	決算額	計画額	決算額	計画額	決算額
1 医業収益		1,561,714	1,461,017	1,561,714	1,338,228	1,561,714	1,437,764
(1) 入院収益		952,157	886,173	952,157	795,629	952,157	874,570
(2) 外来収益		458,304	437,598	458,304	430,196	458,304	442,514
(3) その他医業収益		55,262	42,348	55,262	37,250	55,262	55,264
(4) 他会計負担金		95,991	94,898	95,991	75,153	95,991	65,416
2 医業費用		1,629,777	1,621,845	1,629,920	1,576,017	1,628,511	1,614,313
(1) 給与費		811,596	829,409	811,596	812,205	811,596	823,385
(2) 材料費		250,000	215,678	250,000	172,994	250,000	191,875
(3) 経費		455,343	470,125	452,943	475,531	450,543	479,615
(4) 減価償却費		109,678	102,271	112,221	109,811	113,212	112,701
(5) 資産減耗費		1,619	2,568	1,619	3,283	1,619	4,834
(6) 研究研修費		1,541	1,794	1,541	2,193	1,541	1,903
医業損失／医業利益		△68,063	△160,828	△68,206	△237,789	△66,797	△176,549
3 医業外収益		171,247	181,290	169,117	191,158	168,634	197,226
(1) 受取利息配当金		54	103	54	118	54	109
(2) 他会計補助金		35,289	47,719	35,289	75,100	35,289	74,235
(3) 補助金		8,553	8,350	8,553	3,032	8,553	1,533
(4) 負担金交付金		124,496	122,768	122,366	106,907	121,883	114,398
(5) 長期前受金戻入		0	0	0	3,528	0	3,817
(6) その他医業外収益		2,855	2,350	2,855	2,473	2,855	3,134
(7) 雑収益		0	0	0	0	0	0
4 医業外費用		101,788	99,916	99,409	108,405	96,870	110,343
(1) 支払利息及び企業債取扱諸費		64,137	64,120	61,758	61,728	59,219	59,232
(2) 繰延勘定償却		8,251	8,251	0	0	0	0
(3) 長期前払消費税償却		0	0	8,251	8,251	8,251	8,251
(4) 雑支出		29,400	27,545	29,400	38,426	29,400	42,860
経常利益／経常損失		1,396	△79,454	1,502	△155,036	4,967	△89,666
5 特別利益		0	0	0	0	0	0
(1) その他特別利益		0	0	0	0	0	0
6 特別損失		457	1,368	457	53,640	457	456
(1) 過年度損益修正損		451	1,362	451	53,640	451	456
(2) その他特別損失		6	6	6	0	6	0
(3) 臨時損失		0	0	0	0	0	0
当年度純利益／純損失		939	△80,822	1,045	△208,676	4,510	△90,122
前年度繰越利益剰余金／欠損金		△124,113	△67,989	△123,174	△148,811	△122,129	△346,563
その他未処分利益剰余金変動額					10,924		
当年度未処分利益剰余金／未処理欠損金		△123,174	△148,811	△122,129	△346,563	△117,619	△436,685

※端数については、四捨五入のため合計が合わない箇所があります。

※地方公営企業決算状況調査より。

3 栗駒病院

(単位：千円)

区分	年度	H25年度		H26年度		H27年度	
		計画額	決算額	計画額	決算額	計画額	決算額
1 医業収益		815,259	763,177	815,259	702,252	815,259	673,195
(1) 入院収益		499,378	460,689	499,378	435,192	499,378	419,782
(2) 外来収益		203,633	189,777	203,633	184,395	203,633	167,139
(3) その他医業収益		28,662	20,079	28,662	20,480	28,662	22,142
(4) 他会計負担金		83,586	92,632	83,586	62,185	83,586	64,132
2 医業費用		914,834	886,322	909,601	901,201	901,987	888,398
(1) 給与費		503,524	467,409	503,524	487,110	503,524	480,209
(2) 材料費		86,395	74,386	86,395	71,185	86,395	69,853
(3) 経費		249,666	271,610	249,666	271,641	249,666	267,917
(4) 減価償却費		73,324	70,339	68,091	64,286	60,477	68,245
(5) 資産減耗費		684	1,271	684	5,936	684	1,260
(6) 研究研修費		1,241	1,307	1,241	1,043	1,241	914
医業損失／医業利益		△99,575	△123,145	△94,342	△198,949	△86,728	△215,203
3 医業外収益		167,677	154,967	167,028	198,845	167,429	193,913
(1) 受取利息配当金		21	49	21	55	21	59
(2) 他会計補助金		28,942	18,028	28,942	97,683	28,942	97,941
(3) 補助金		0	0	0	0	0	0
(4) 負担金交付金		129,928	133,221	129,279	92,019	129,680	88,484
(5) 長期前受金戻入		0	0	0	4,628	0	3,166
(6) その他医業外収益		8,786	3,669	8,786	4,460	8,786	4,263
(7) 雑収益		0	0	0	0	0	0
4 医業外費用		36,415	36,160	35,799	49,881	35,117	42,224
(1) 支払利息及び企業債取扱諸費		20,568	20,801	19,952	20,228	19,270	19,868
(2) 繰延勘定償却		3,999	3,999	0	0	0	0
(3) 長期前払消費税償却		0	0	3,999	3,999	3,999	3,999
(4) 雑支出		11,848	11,360	11,848	25,654	11,848	18,357
経常利益／経常損失		31,687	△4,338	36,887	△49,985	45,584	△63,514
5 特別利益		0	0	0	0	0	0
(1) その他特別利益		0	0	0	0	0	0
6 特別損失		67	640	67	29,728	67	397
(1) 過年度損益修正損		67	630	67	29,724	67	397
(2) その他特別損失		0	10	0	4	0	0
(3) 臨時損失		0	0	0	0	0	0
当年度純利益／純損失		31,620	△4,978	36,820	△79,713	45,517	△63,911
前年度繰越利益剰余金／欠損金		△90,993	△66,388	△59,373	△71,366	△22,553	△148,179
その他未処分利益剰余金変動額					2,900		
当年度未処分利益剰余金／未処理欠損金		△59,373	△71,366	△22,553	△148,179	22,964	△212,090

※端数については、四捨五入のため合計が合わない箇所があります。

※地方公営企業決算状況調査より。

別紙2 市立3病院経営指標

1 栗原中央病院の経営指標及び実績

経営指標項目		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
①病院機能評価	計画						
	実績			Ver. 6.0認定			
②1日平均入院患者数	計画	240.0人	213.9人	225.0人	235.0人	240.0人	
	実績	200.4人	217.0人	200.6人	195.4人	189.3人	
③1日平均外来患者数	計画	480.0人	392.0人	450.0人	450.0人	450.0人	
	実績	419.0人	388.8人	388.7人	387.2人	371.4人	
④紹介率	計画	45.0%	—	—	—	—	
	実績	45.5%	59.5%	57.8%	60.7%	61.1%	
⑤逆紹介率	計画	50.0%	—	—	—	—	
	実績	31.5%	44.2%	43.5%	52.3%	43.6%	
⑥医業収支比率	計画	89.8%	87.7%	92.4%	93.4%	94.5%	
	実績	86.0%	89.8%	84.8%	83.2%	83.2%	
⑦病床利用率	計画	80.0%	71.3%	75.0%	78.3%	80.0%	
	実績	66.8%	72.3%	66.9%	65.1%	63.1%	
内訳	一般病床	計画	84.0%	71.5%	74.2%	78.1%	80.0%
		実績	66.7%	72.2%	65.9%	64.4%	64.2%
	療養病床	計画	60.0%	70.0%	80.0%	80.0%	80.0%
		実績	67.7%	73.3%	72.9%	69.3%	57.4%
⑧ 平均入院単価	計画	29,105円	35,419円	34,280円	34,280円	34,280円	
	実績	33,661円	34,508円	34,645円	34,635円	35,943円	
内訳	一般病床	計画	31,120円	38,329円	37,455円	37,455円	37,455円
		実績	36,543円	37,307円	37,576円	37,797円	39,445円
	療養病床	計画	15,000円	16,100円	15,632円	15,632円	15,632円
		実績	15,632円	16,594円	17,404円	16,794円	16,354円
⑨平均外来単価	計画	6,530円	9,838円	8,280円	8,280円	8,280円	
	実績	8,280円	9,352円	9,801円	10,291円	10,779円	
⑩経常収支比率	計画	100.3%	96.8%	100.3%	101.1%	102.2%	
	実績	95.5%	98.5%	92.4%	92.3%	92.6%	
⑪平均在院日数 (一般病床)	計画	16.0日	—	—	—	—	
	実績	15.5日	16.5日	16.2日	18.1日	17.2日	

2 若柳病院の経営指標及び実績

経営指標項目		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
①病院機能評価	計画						
	実績						
②1日平均入院患者数	計画	111.0人	99.9人	102.2人	102.2人	102.2人	
	実績	99.1人	97.9人	92.4人	85.5人	89.4人	
③1日平均外来患者数	計画	250.0人	208.0人	218.2人	218.2人	218.2人	
	実績	203.7人	200.1人	204.6人	200.7人	200.2人	
④紹介率	計画	20.0%	—	—	—	—	
	実績	35.0%	42.2%	40.2%	44.3%	43.6%	
⑤逆紹介率	計画	30.0%	—	—	—	—	
	実績	44.9%	41.2%	36.2%	40.5%	39.5%	
⑥医業収支比率	計画	90.0%	89.4%	95.8%	95.8%	95.9%	
	実績	92.4%	92.5%	90.1%	84.9%	89.1%	
⑦病床利用率	計画	92.5%	83.3%	85.2%	85.2%	85.2%	
	実績	82.6%	81.6%	77.0%	71.3%	74.6%	
内訳	一般病床	計画	92.2%	81.7%	83.3%	83.3%	83.3%
		実績	79.9%	79.7%	75.5%	67.1%	74.9%
	療養病床	計画	93.3%	88.0%	90.7%	90.7%	90.7%
		実績	90.6%	87.2%	81.6%	83.9%	73.5%
⑧ 平均入院単価	計画	27,404円	26,109円	25,525円	25,525円	25,525円	
	実績	25,412円	25,919円	26,275円	25,490円	26,708円	
内訳	一般病床	計画	31,588円	29,784円	29,140円	29,140円	29,140円
		実績	29,140円	29,730円	30,933円	29,614円	30,268円
	療養病床	計画	15,000円	15,878円	15,557円	15,557円	15,557円
		実績	15,557円	15,469円	13,353円	15,597円	15,822円
⑨平均外来単価	計画	6,954円	8,618円	8,573円	8,573円	8,573円	
	実績	8,573円	8,767円	8,767円	8,786円	9,098円	
⑩経常収支比率	計画	102.3%	94.5%	100.1%	100.1%	100.3%	
	実績	97.0%	97.4%	95.4%	90.8%	94.8%	
⑪平均在院日数 (一般病床)	計画	18.0日	—	—	—	—	
	実績	20.0日	20.5日	20.8日	19.6日	19.2日	

3 栗駒病院の経営指標及び実績

経営指標項目		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
①病院機能評価	計画						
	実績						
②1日平均入院患者数	計画	68.0人	59.4人	64.6人	64.6人	64.6人	
	実績	64.6人	59.1人	60.3人	57.5人	55.3人	
③1日平均外来患者数	計画	162.0人	121.5人	134.6人	134.6人	134.6人	
	実績	134.6人	119.9人	114.3人	111.4人	102.6人	
④紹介率	計画	30.0%	—	—	—	—	
	実績	18.4%	18.6%	25.7%	23.5%	26.3%	
⑤逆紹介率	計画	35.0%	—	—	—	—	
	実績	26.8%	29.4%	15.6%	15.7%	32.3%	
⑥医業収支比率	計画	84.0%	80.5%	89.1%	89.6%	90.4%	
	実績	89.7%	81.9%	86.1%	77.9%	75.8%	
⑦病床利用率	計画	90.7%	79.2%	86.1%	86.1%	86.1%	
	実績	86.2%	78.9%	80.4%	76.6%	73.7%	
内訳	一般病床	計画	91.1%	79.1%	88.4%	88.4%	88.4%
		実績	88.5%	78.0%	79.6%	71.2%	72.2%
	療養病床	計画	90.0%	79.3%	82.7%	82.7%	82.7%
		実績	82.7%	80.1%	81.5%	84.7%	75.9%
⑧ 平均入院単価	計画	21,099円	21,624円	21,179円	21,179円	21,179円	
	実績	21,180円	20,212円	20,940円	20,750円	20,748円	
内訳	一般病床	計画	25,116円	26,557円	24,955円	24,955円	24,955円
		実績	24,955円	24,276円	24,981円	25,381円	25,023円
	療養病床	計画	15,000円	14,245円	15,119円	15,119円	15,119円
		実績	15,119円	14,275円	15,021円	14,914円	14,651円
⑨平均外来単価	計画	5,210円	6,689円	6,175円	6,175円	6,175円	
	実績	6,175円	6,522円	6,801円	6,785円	6,702円	
⑩経常収支比率	計画	95.0%	95.0%	103.3%	103.9%	104.9%	
	実績	104.2%	97.2%	99.5%	94.6%	93.2%	
⑪平均在院日数 (一般病床)	計画	18.0日	—	—	—	—	
	実績	17.0日	17.0日	19.9日	19.0日	19.9日	

栗原市立病院経営評価委員会委員

《資料3》

任期：平成27年8月1日から平成30年7月31日

No	所 属	役職名	氏 名	備 考
1	(一財) 大原綜合病院	名誉院長	有 我 由紀夫	○委員長 (福島県)
2	日本医療文化研究会	主 宰	茨 常 則	○副委員長 (東京都)
3	山形市病院事業	管理者	平 川 秀 紀	○副委員長 (山形県)
4	栗原市医師会	議 長	宮城島 堅	(栗原市)
5	石巻赤十字病院	事務部長	佐々木 清 司	(石巻市) H28. 3. 31まで
		事務部長	後 藤 孝 浩	(石巻市) H28. 4. 1から
6	(公社) 宮城県看護協会	会 長	佃 祥 子	(仙台市)
7	宮城県総務部	参事兼 市町村課長	富 田 政 則	(仙台市) H28. 3. 31まで
		市町村課長	清 水 裕 之	(仙台市) H28. 4. 1から
8	矢川昌宏公認会計士事務所	代 表	矢 川 昌 宏	(石巻市)
9	栗原市企業連絡協議会	会 長	小 山 信 康	(栗原市)

(敬称略)

栗原市立病院経営評価委員会設置要綱

(設置)

第1条 栗原市病院事業経営健全化計画（以下「計画」という。）に基づく取組状況、計画の見直し等に関する事項及び市立病院事業の経営全般について評価、検討等を実施し、市立病院事業の経営健全化等を図ることを目的として栗原市立病院経営評価委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会の所掌事務は、次のとおりとする。

- (1) 計画に基づく取組状況、計画の見直し等に関すること。
- (2) 市立病院の経営全般について評価、検討等を実施すること。
- (3) その他病院事業管理者が必要と認める事項

(組織)

第3条 委員会は、委員10人以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから、病院事業管理者が委嘱する。

- (1) 学識経験者
- (2) 医療関係者
- (3) その他病院事業管理者が必要と認める者

3 委員の任期は3年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 委員は、再任されることができる。

(委員長及び副委員長)

第4条 委員会に、委員長及び副委員長を置き、委員の互選により選任する。

2 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 委員会の会議は、委員長が招集し、委員長がその議長となる。

2 委員会の会議は、委員の半数以上が出席しなければ開くことができない。

3 委員会の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(意見の聴取等)

第6条 委員会は、必要があると認めるときは、議事に係る関係者又は専門家に対し、出席を求めて意見若しくは説明を聴き、又は必要な書類の提出を求めることができる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、医療局医療管理課において処理する。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附 則

(施行期日)

1 この告示は、平成20年12月 1日から施行する。

平成24年 7月 1日 一部改正

(会議の招集の特例)

2 この告示の施行後、最初に開かれる会議は、第5条第1項の規定にかかわらず、病院事業管理者が招集する。

メモ

A series of horizontal dotted lines for taking notes.

栗原市病院事業 医療局 医療管理課

〒987-2205

宮城県栗原市築館宮野中央三丁目1番地1

TEL 0228-21-5631 FAX 0228-21-5632

ホームページ <http://www.kam.or.jp/>

メールアドレス medical@kuriharacity.jp